

玉小だより

第5号

令和8年9月1日

【学校教育目標】

○進んで学ぶ子

○助け合う子

○元気な子

「仲間と元気いっぱい活動し、笑顔あふれる学校」

2学期がスタートしました

夏休みに入り、熊本市を中心とする地域で大きな地震が発生しました。さらに、台風15号が日本に上陸し、千葉県内で被害が発生するなど、各地で自然災害に見舞われました。お亡くなりになった方々に、心よりお悔やみ申し上げます。被害に遭われた皆様が、一日も早く平穏な日常を取り戻されますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年に比べ、今年の夏は朝晩に涼しさを感じる日も多かったように思います。一方で、全国各地では猛暑、酷暑が続きました。このような暑さの中で、子供たちはどのように過ごしているのだろうか、と気がかりでなりません。

文部科学省・気象庁「日本の気候変動2025」によると、20世紀末と比較して21世紀末には、平均気温が約1.4～4.5度上昇し、猛暑日（最高気温35度以上）の年間日数も約2.9～17.5日増加すると予測されています。また、気温の上昇に伴い、大雨の頻度や強さも増加すると予想されています。こうした気候の変化は、私たちの日常生活にもさまざまな影響を及ぼしています。熱中症による救急搬送や農作物への被害などに加え、子供たちの学校生活にも大きな影響が生じています。例えば、暑さ指数（WBGT）が31以上になると、体育の学習を中止したり、外遊びを控えたりしなければなりません。

では、気温の上昇を少しでも抑え、子供たちが安心して暮らせる未来を残していくためには、私たちに何ができるのでしょうか。先日、高校生によるエコカーコンテストの記事を目にしました。（埼玉新聞8月4日付）第24回埼玉県高校生エコカーコンテストが埼玉県鴻巣市で開催され、県内の工業系高校8校から11チームが参加したそうです。50ccエンジンを搭載したエコカーを製作し、限られた燃料でどれだけ長い距離を走ることができるかを競う大会で、三郷工業技術高校機械研究部が燃料噴射方式部門を制するとともに、総合優勝を果たしました。高校生が、部活動や実習を通して、少しでも燃料を使わず、環境への負荷を減らす車をつくろうと知恵を絞り、技術を磨いていることを知り、大変感銘を受けました。

地球温暖化という大きな問題を前にすると、「自分一人が取り組んでも何も変わらない」と感じてしまうことがあるかもしれません。しかし、一人一人の小さな心がけや取組が積み重なり、やがて大きな成果につながっていくのではないのでしょうか。子供たちが安心して暮らせる未来を残していくために、私たち大人ができること、そして子供たち自身ができることを考えながら、一つ一つの取組を大切にし、継続していきたいと思います。

2学期も、「仲間と元気いっぱい活動し、笑顔あふれる学校」となるよう、保護者・地域の皆様と連携しながら教育活動を進めてまいります。今学期も、皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。